

2022年3月期 第1四半期決算 第2四半期業績予想の修正

2021年7月30日
伯東株式会社



(単位:百万円)	21/3期 1Q累計	22/3期 1Q累計	増減(△印減)	
			差異	比率
売上高	35,719	44,592	8,873	24.8%
売上総利益	4,647	5,775	1,128	24.3%
営業利益	1,236	2,092	856	69.2%
経常利益	1,148	2,146	997	86.8%
四半期純利益	736	1,479	743	100.9%
(四半期包括利益)	1,851	1,718	△ 133	—
1株当たり純利益	35.83円	72.27円	36.44円	—

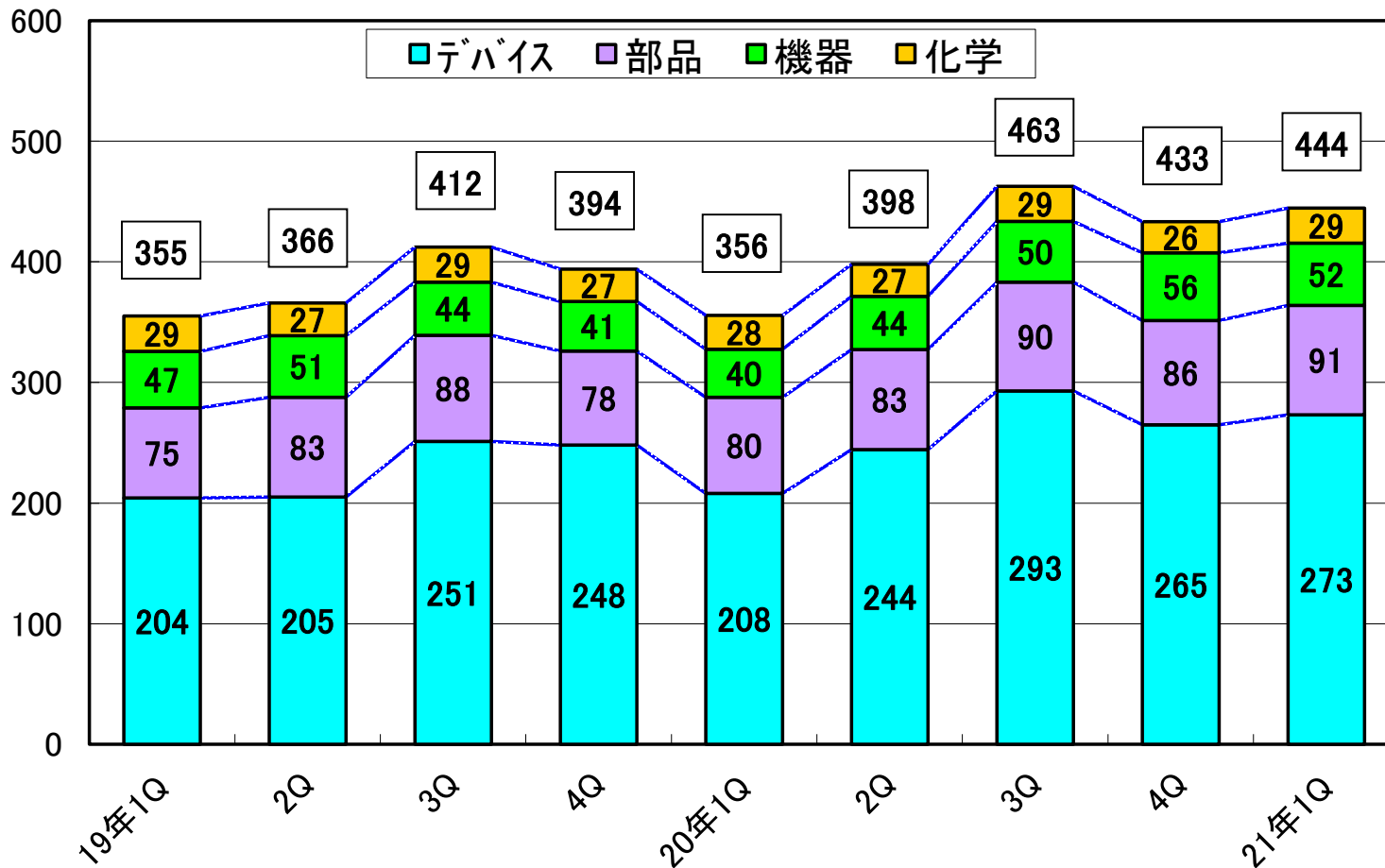
《当四半期業績の概要》

◇半導体需要の急拡大により、取扱いの電子部品、電子・電気機器が大幅に伸長

◇売上伸長に伴う利益増加に加えて、為替動向も外貨建て輸出取引の収益改善を後押し

◇販管費は、人件費は増加も、新型コロナウイルスの影響により、出張費等の活動経費は前年1Q同様の水準に留まる

(単位:億円)



《分野別売上高の推移》

- ◇化学:工業薬品、化粧品関連製品ともに堅調
- ◇機器:半導体関連の設備投資活発化に伴い、ICパッケージ用露光装置や真空機器が伸長
- ◇部品:通信インフラ向け光部品が伸長
- ◇デバイス(IC):民生・産業機器分野及び車載関連分野の需要が急拡大も、供給不足によりリードタイムが長期化

(単位: 百万円)		21/3期 1Q	22/3期 1Q	増減
電子部品	売上高	28,745	36,387	7,642
	セグメント利益	320	1,028	708
電子・ 電気機器	売上高	4,018	5,156	1,138
	セグメント利益	560	560	0
工業薬品	売上高	2,807	2,899	92
	セグメント利益	249	442	193
その他	売上高	328	320	△ 8
	セグメント利益	91	89	△ 2
合計	売上高	35,899	44,763	8,864
	セグメント利益	1,221	2,121	900

《セグメント情報の概要》

◇電子部品: 通信・民生・産業機器及び車載分野が増収、売上拡大に加え、為替影響により輸出取引が収益改善

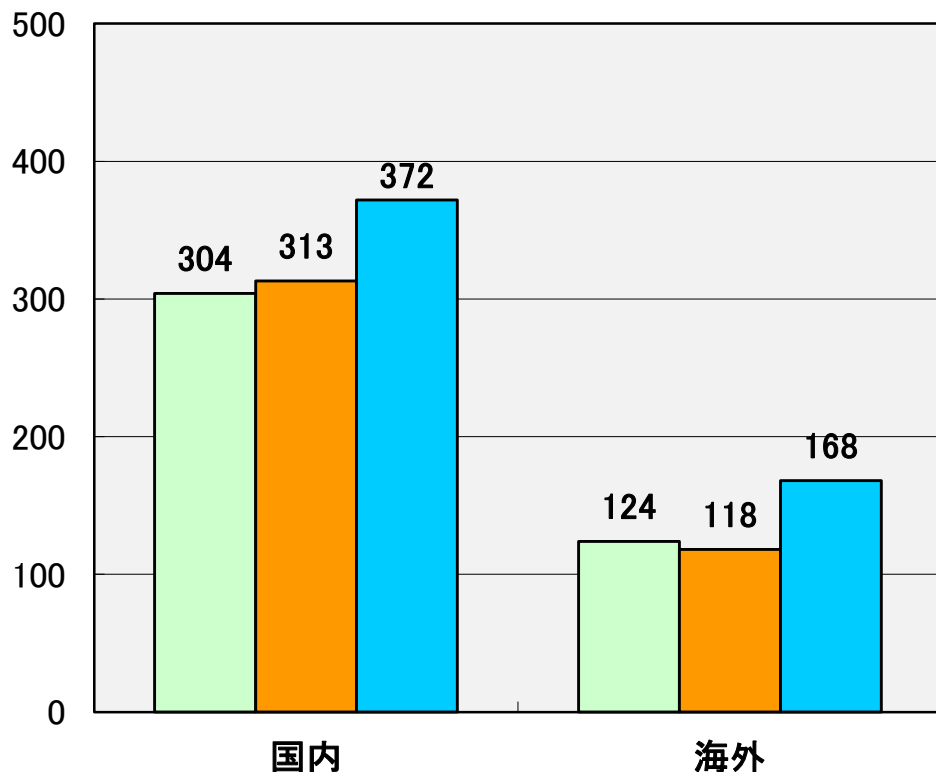
◇電子・電気機器: 半導体関連の設備投資活発化によりPCB関連や真空機器が増収

◇工業薬品: 顧客プラントの稼働回復と化粧品関連製品の伸長により増収、自社製品の販売増加により増益

※1. 売上高はセグメント間内部取引消去前(同一セグメント内取引は相殺済)の金額

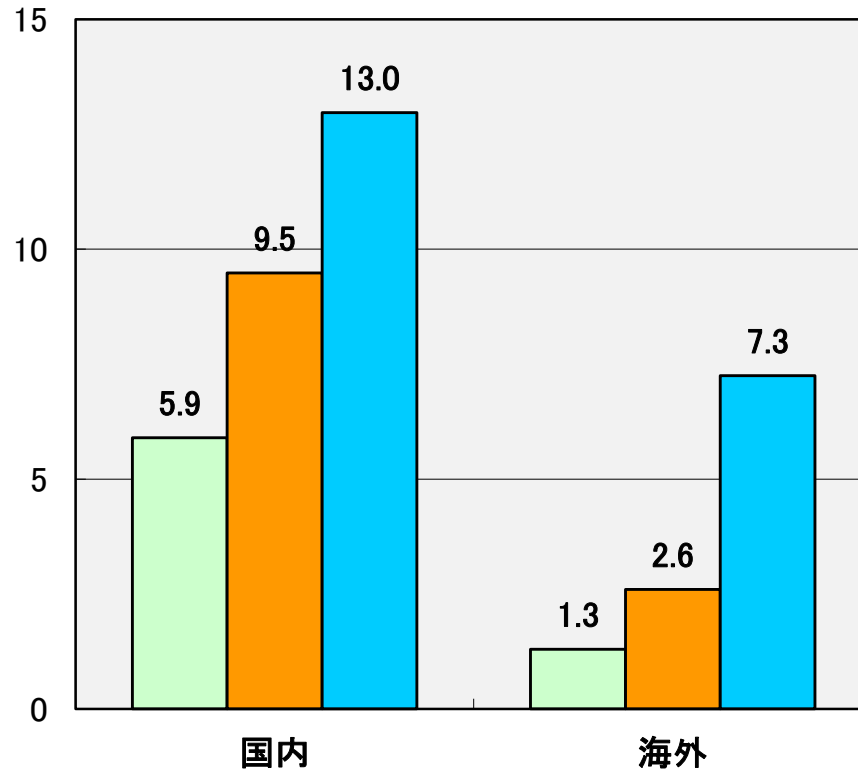
※2. 22/3期より従来「電子部品」に区分していた太陽光発電事業を「その他」に区分変更
21/3期1Qも変更後のセグメント区分で記載

(単位: 億円) 売上高(単純合算)



国内(伯東+連結子会社3社)
 伯東、モルデック、HAL、HLS(2021年4月に吸収合併)
 海外(連結子会社9社):
 伯東香港、上海、台湾、シンガポール、タイランド、他4社

(単位: 億円) 営業利益



□ 20/3期1Q実績
 □ 21/3期1Q実績
 □ 22/3期1Q実績

(単位:百万円)	21/3期	21/6期	増減 (△印減)
総資産	116,422	112,076	△4,346
内:現預金	17,867	16,671	△1,196
内:売上債権	43,978	42,437	△1,541
内:たな卸資産	32,179	33,060	881
内:投資有価証券	8,409	8,829	420
総負債	58,403	53,355	△5,048
内:仕入債務	19,079	19,281	202
内:有利子負債	29,360	25,851	△3,509
純資産	58,018	58,720	702
自己資本比率	49.8%	52.4%	2.6%

《主な増減理由》

- ◇現預金:連結キャッシュ・フロー参照
- ◇売上債権:21/3期に比べ直近6ヶ月間の売上高が減少
- ◇たな卸資産:車載向けIC在庫の増加
- ◇投資有価証券:保有株式の株価上昇(新規取得は無し)
- ◇有利子負債:短長期借入金の減少(△35億円)
- ◇純資産:利益剰余金の増加(+7.6億円)

(単位:百万円)	21/3期 1Q	22/3期 1Q	増減 (△印減)
営業キャッシュ・フロー	1,251	3,383	2,132
投資キャッシュ・フロー	△92	△109	△17
財務キャッシュ・フロー	△436	△4,500	△4,064
換算差額	36	31	△5
現金・現金同等物 増減額	759	△1,195	△1,954

現金・現金同等物 期末残高	15,496	16,671	1,175
------------------	--------	--------	-------

《主な内訳》

◇営業CF: 税前利益+21億円、売上債権の減少+16億円、たな卸資産の増加△8.8億円

◇投資CF: 固定資産の取得△1億円

◇財務CF: 借入金の減少△35億円(内、短期借入金の減少△25億円)、配当金の支払△6.8億円、自己株式の取得△3億円

■第2四半期業績予想の修正(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	80,000	1,900	1,800	1,450	70 43
今回修正予想(B)	90,000	3,300	3,300	2,250	109 89
増減額(B-A)	10,000	1,400	1,500	800	-
増減率(%)	12.5	73.7	83.3	55.2	-
21/3期2Q実績	75,619	1,653	1,521	1,014	49 33

《第2四半期～修正の理由》

◇半導体等、電子部品需要の増加及び設備投資の活発化を背景に、通信・民生・産業機器及び車載用途IC、並びにICパッケージ向け露光装置等が好調に推移していることから、売上高が前回予想を上回る見込み

◇売上高の増加に伴う利益増により各段階利益も前回予想を上回る見込み

《通期～据え置きの理由》

◇半導体の供給不足の深刻化に加えて、今後の需要動向も注視すべき状況との判断により、第3四半期以降の見通しは現在精査中

◇今後の市場動向等を踏まえて業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示を予定

■ご参考:通期業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
通期業績予想 (2021/4/30公表)	167,000	4,000	3,800	3,000	145 71

基準日	1株当たり配当金			配当金 総額 (年間)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第2 四半期末	期末	年間			
20年3月期	円 銭 30 00	円 銭 20 00	円 銭 50 00	百万円 1,027	% 71.4	% 1.9
21年3月期	円 銭 25 00	円 銭 35 00	円 銭 60 00	百万円 1,235	% 40.3	% 2.2
22年3月期 (予想)	円 銭 30 00	円 銭 30 00	円 銭 60 00	百万円 -	% 41.2	% -

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2021年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 特別配当 10円00銭

◇22年3月期の年間配当は、21年3月期と同額の60円00銭を予定(配当性向41.2%)

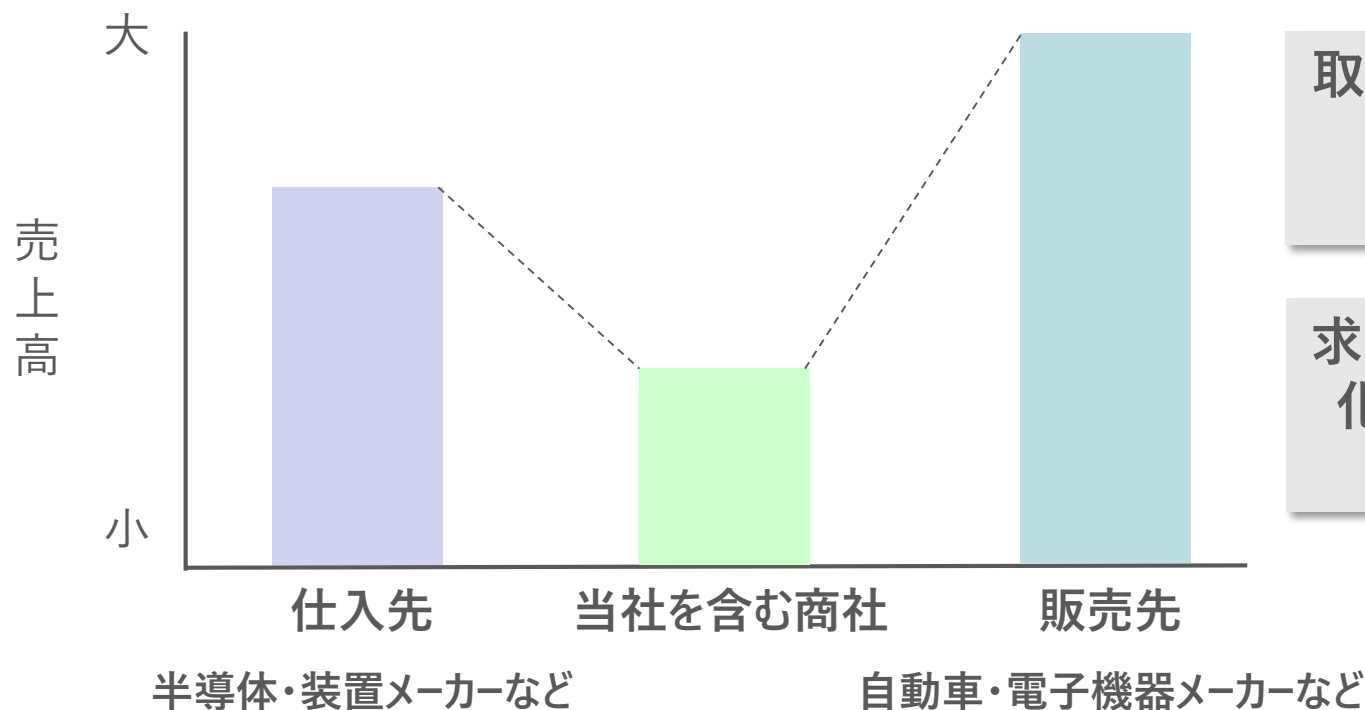
新中期経営計画

Change & Co-Create 2024

当社は、2021年4月30日に、2021年度から2024年度を計画期間とする
新中期経営計画「Change & Co-Create 2024」を策定しております。

仕入先・販売先共に企業規模が巨大化
市場は成長しているものの、商社の収益性確保が課題に

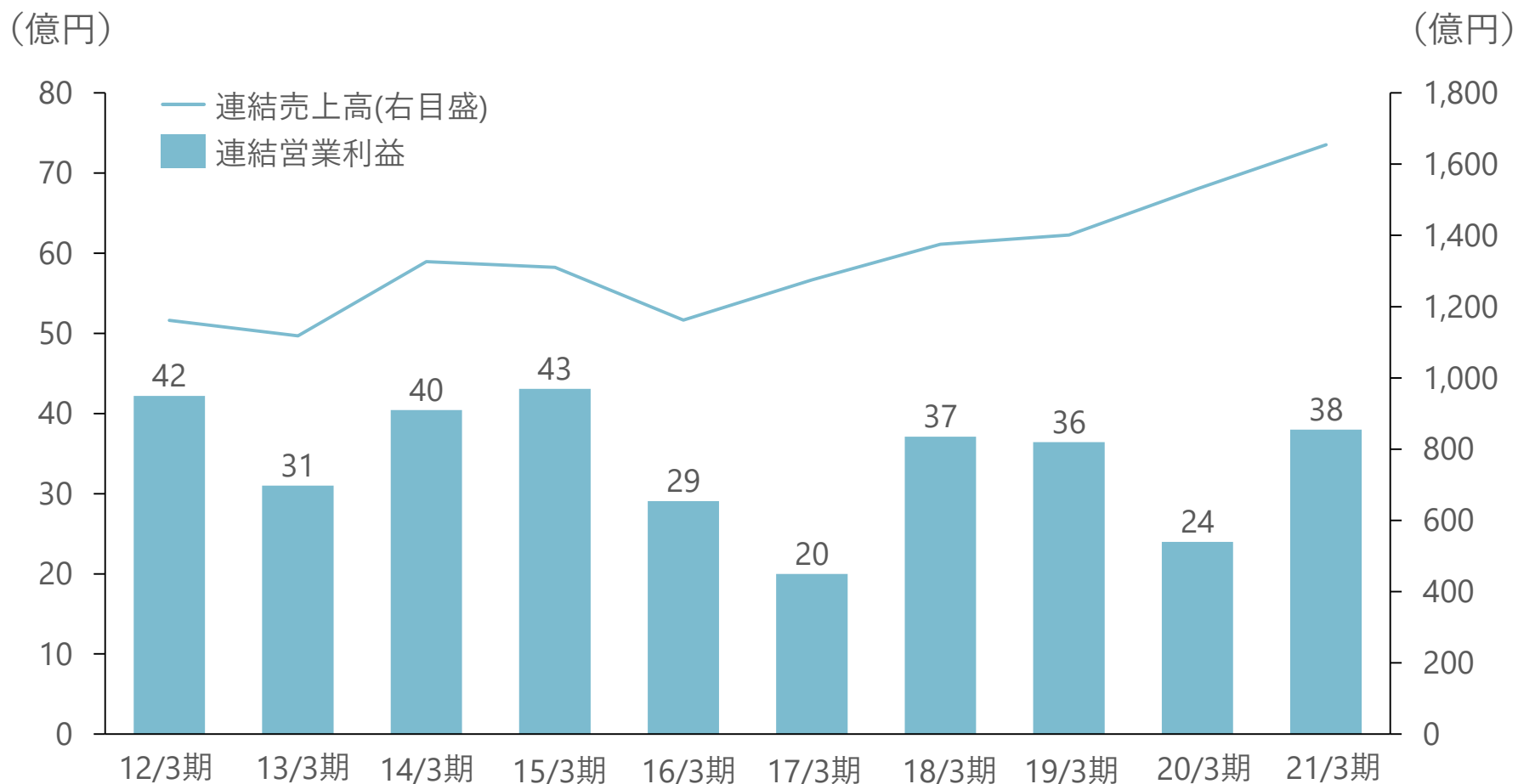
■ 当社と取引先の売上高規模イメージ



取引先の大規模化により、
商社の交渉力が低下
収益性維持が課題

求められる商社の役割も変
化し、ニーズに則した機能
が必要とされる

売上高は伸長するも、営業利益は伸び悩み



半導体デバイスビジネスの収益性と
部品・機器・化学ビジネスの成長性が課題

半導体デバイス

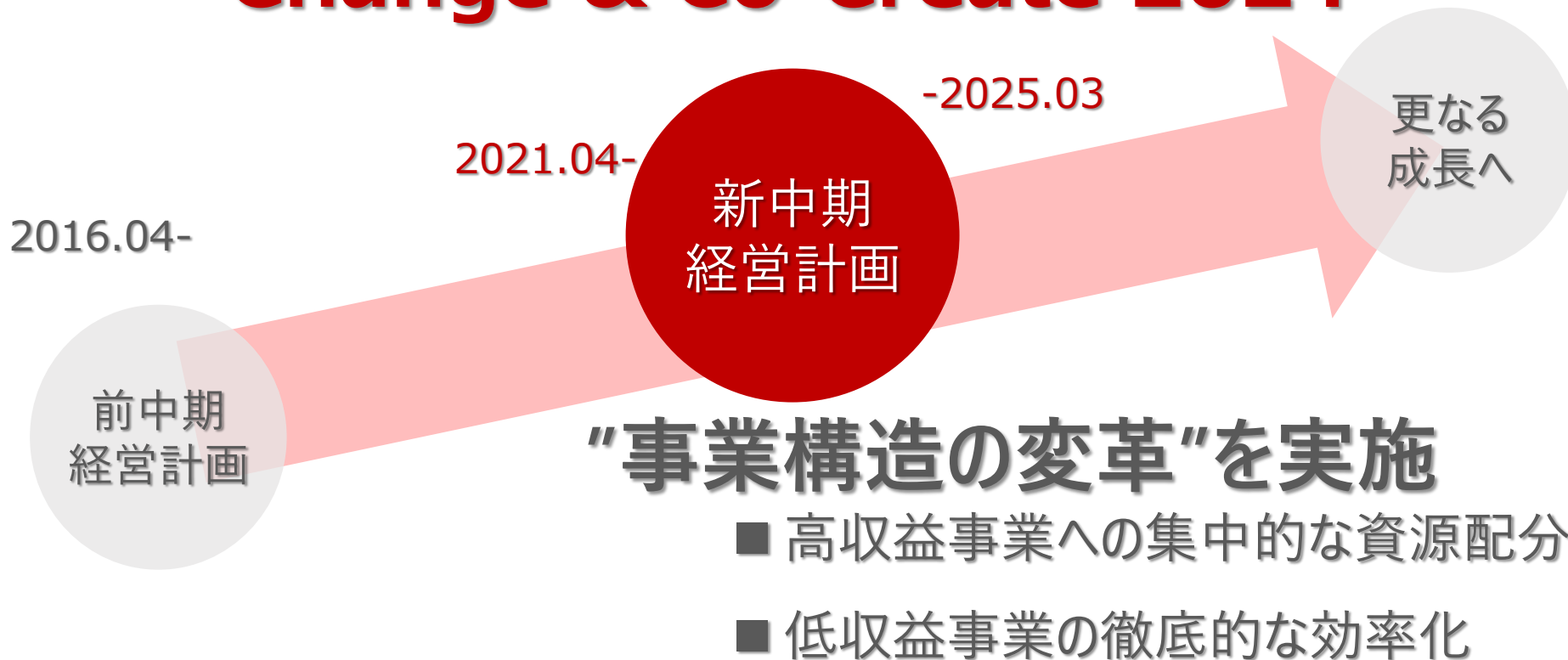
半導体デバイスの汎用化・多様化に伴い収益性が低下傾向
規模の拡大に伴い業務効率が低下し高コスト化

部品・機器・化学

高収益ビジネスではあるものの、事業の拡大に課題
外部資源の活用や経営資源の投資が不十分

伯東は変わります！
専門商社の域を超え、情報・技術を活かした価値の共創を目指します

Change & Co-Create 2024



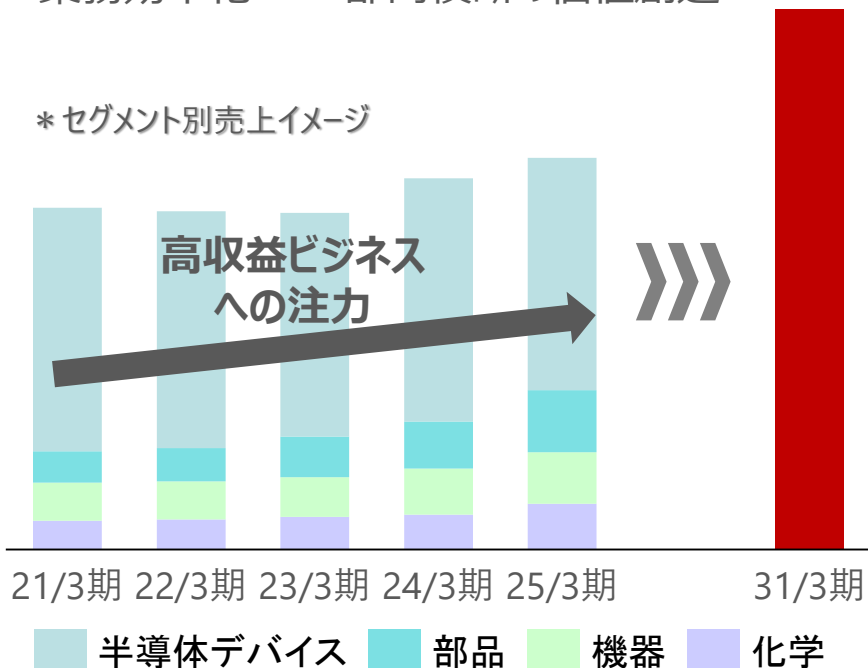
全社的・分野ごとの網羅的な戦略の実行により成長を実現
2024年度以降を見据えた中長期の企業価値向上を目指す

■ セグメント別売上高

構造変革 → 再成長 → 更なる成長

- 組織改革
- 業務効率化
- 分野別施策
- 部門横断の価値創造

*セグメント別売上イメージ



■ 新中期経営計画のポイント

事業	高収益事業への資源投下
組織	部門横断の情報・技術による価値創造
技術	外部資源との連携 (M&A・オープンイノベーション)
DX	業務改革の実現を加速させるDX戦略

高収益企業へのドライバーとして資源を投下
協業・M&Aを積極的に展開し、Organic成長 + α の成長を果たす

部品

マーケティング強化による
新規事業の拡大を実現

機器

差別化された技術で
顧客のバリューアップに貢献

化学

コア技術と商社機能を
活かしたソリューション提供

業務効率化により投下資本を削減し、高効率のビジネスを実現

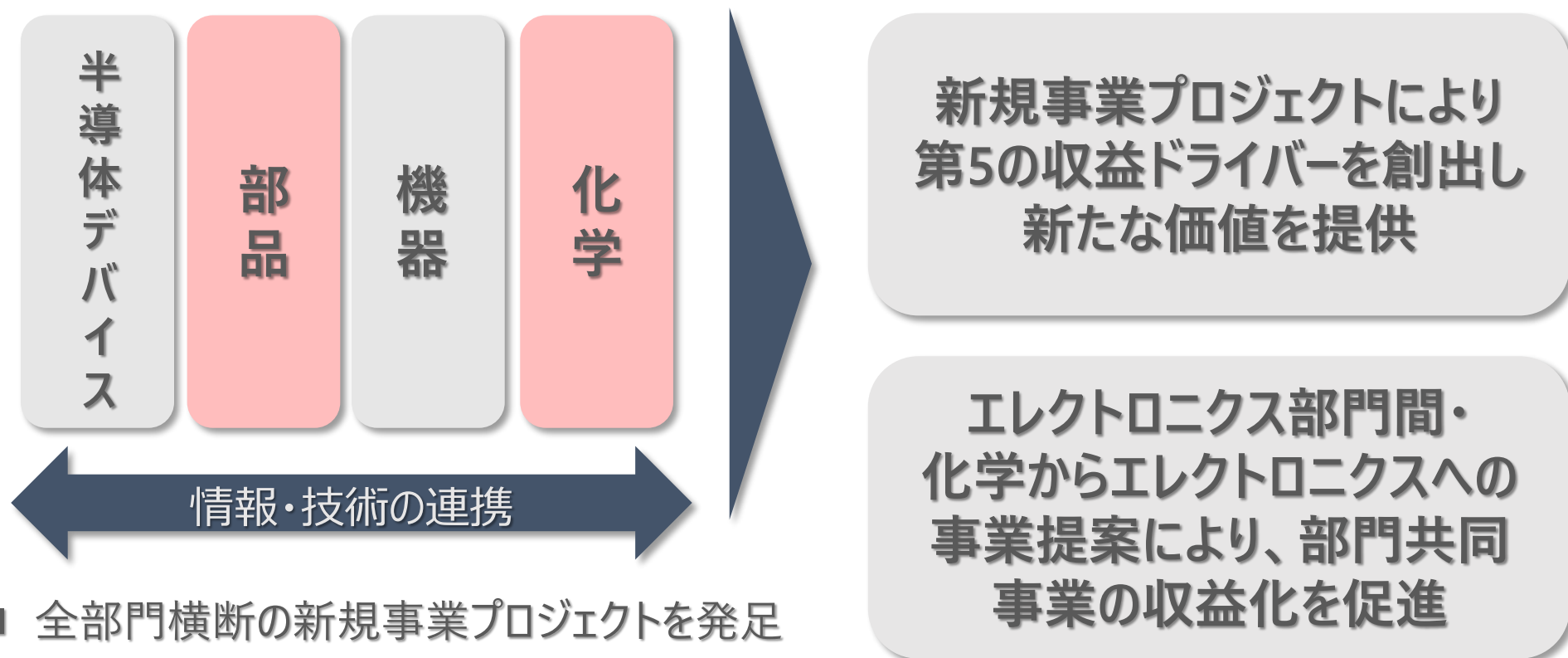
半導体デバイス

技術力・提案力を高め、
高付加価値事業を提供

海外

エリア別の戦略強化と
業務効率化

部門横断の情報・技術による価値創造



- 全部門横断の新規事業プロジェクトを発足
- 部門間の交流・共同ビジネスを促進

外部資源との連携（M&A・オープンイノベーション）



大学・研究機関

川上・川下企業

海外半導体商社

- コア技術の強化・事業ポートフォリオの拡大を目的とし、M&A・オープンイノベーションを促進

自前主義から脱却し、
新たな技術創造を促進

技術商社の強みである
“技術”を強化し、他にはない
ソリューションの提供を実現

DX戦略を通して、“顧客起点”の価値創出を実現

フロントエンドのDX

“顧客起点”の価値創出

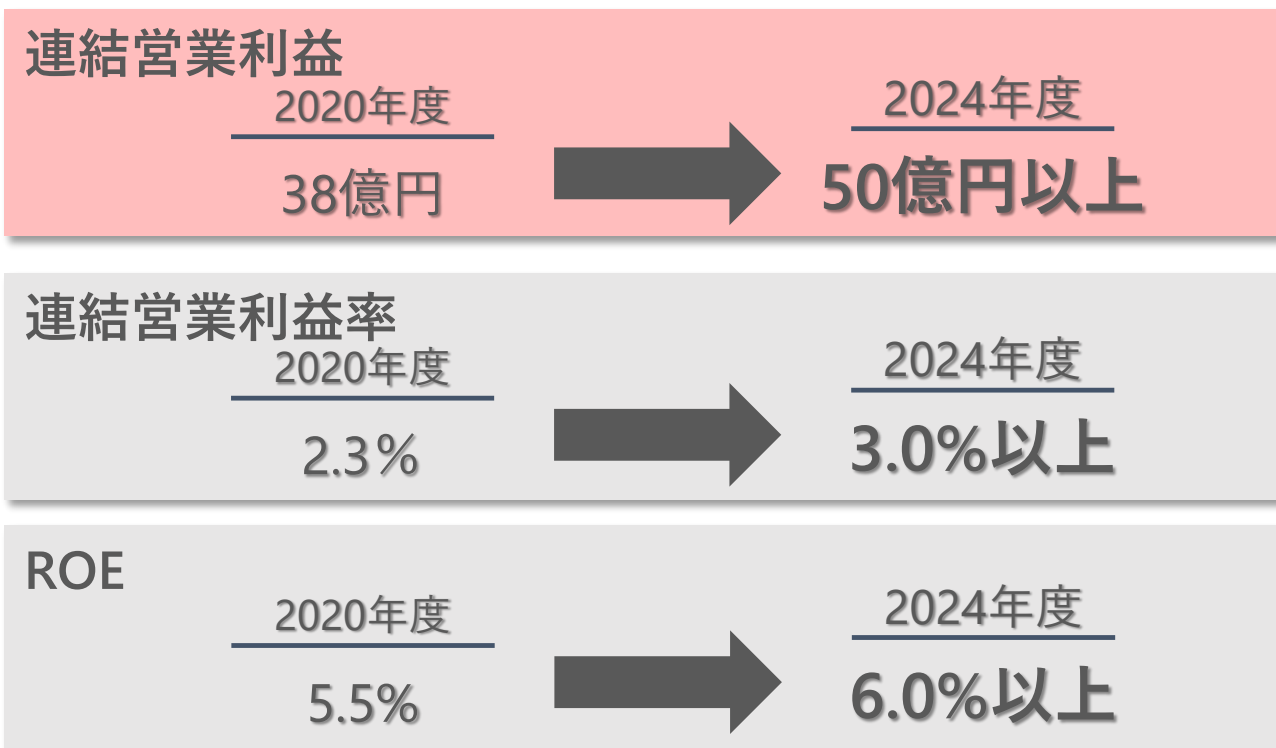
伯東とお客様をつなぎ、新しい付加価値
を提供する新ビジネスモデル創出

バックエンドのDX

MAツール・RPAを駆使した
全事業横断での業務プロセスの
抜本的な改革・効率化

事業構造の変革により、収益性・効率性を高め、
安定的に営業利益50億円以上を計上できる基礎を確立

■ 2024年度目標



■ 株主還元の基本方針

株主への利益還元の充実は経営上の重要な施策と位置づけ、
本計画期間中は配当と自己株式の取得により、
総還元性向100%とする

配当は引き続き安定配当を基本とする

事業成長が期待でき、高い投資効率が期待できる
投資案件等があれば優先する

本資料にて記載されているデータ及び将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により変化する可能性があります。従いまして、本資料は記載された目標・予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。

< IRに関するお問合せ先 >

経営企画部 tel.03-3225-8931